



高校交流事業・実績



特定非営利活動法人

日本・インドネシア教育文化交流協会

NPO Japan/Indonesia Educational and Cultural Exchange

2-3-31-4F Honjo-Higashi, Kita, Osaka, JAPAN

Tel: +81-(0)6-6136-8253 Fax: +81-(0)6-6373-1607

Email: info@jp-id.org

引率の菅先生からのメール(15日土曜日午後5時30分) 本文と写真を掲載します

「ただいま無事にホームステイ先に到着しました。バリバリ、バリの一般家庭です。生徒たちも、ものすごく貴重な経験ができると思います。しかし、あつい!!!です。

① ネカ美術館



② 昼食 バリの一般的な食事のようです



③ モンキーフォレスト



④ モンキーフォレスト 猿が人間とたわむれます



出発から4日目、飛行機に乗ってやって来た日ともうずいぶん昔のことに思われます。

今日は、ウブド第一高校で初授業でした。生徒は慣れない環境に戸惑いながらも、一生懸命授業を受けていました。その他の活動も含めて、写真を添付します。

①ティルターエンブル寺院



②コーヒー農園でバリコーヒー堪能中



③麝香猫コーヒー(世界一高価なコーヒー)を焙煎してます



④現地の人と



⑤ホームステイでの夕食(ナシチャプルー)



⑥学校での歓迎会の様子



⑦～⑨授業風景



⑩ホームステイ先の風景 このような建物が敷地内に 10 戸ほどあります



パリは相変わらず蒸し暑い日が続いています。生徒たちは至って元気です。

今日はウブド高校で、南山生が日本語のプレゼンテーションを行いました。原爆の話や学校紹介、日本のアニメ、アイドルグループなど、様々な話をウブドの生徒に話しました。緊張していましたが、ウブドの温かい生徒たちのおかげで大いに盛り上がりました。また、英語の授業では英語でインタビューし合って、積極的に交流していました。

①②プレゼンテーションの様子



③英語インタビューの様子



④授業後の集合写真



⑤⑥日本語の文化クラブの生徒たちに折り紙を教えています



こちらバリは今日(19日)は雨が降り、幾分過ごしやすい気温になっています。ホームステイ先では、一週間後に控えたお祭りに向けての準備で、賑やかな夜を迎えています。虫の鳴き声と現地の人たちのお祭りの歌が心地よく響き渡っています。本日は生徒はオフで、朝から田んぼを散歩したり、南国の珍しい果物を食べたりと、のんびりとした一日を過ごしました。心身共にリフレッシュできたようです。明日はいよいよ最後の登校日です。

①②田んぼをお散歩



③ドリアンに挑戦しましたが…(>_<)



④朝食(みたらし団子のような味の米粉でできたもの)





⑤ガムランというバリの伝統楽器を習っています



ウブド村は今日(20日木曜日)は朝から激しい雨でした。そのため早朝は肌寒く、長袖で登校する生徒もいました。今日は朝から大忙しで、午後一時半まで授業を受けた後、ホームステイ先に戻りガムランの演奏、もう一度ウブド高校に戻りバスケットをして、それからホームステイ先にウブド高生を招いてフェアウエルパーティーをしました。パーティーでは”サテ”という魚のミンチの串焼きを作り、みんなで焼いて食べました。三日間という短い間でしたが、限られた時間の中でウブドの生徒たちと貴重な思い出を作ることが出来ました。日本にいたら絶対に巡り会えない友人に出会い、生徒たちはまた一つ大きな財産を手にしたようです。明日はいよいよホームステイとお別れして、海岸地区のサヌールに移動します。



バリ島の活動が現地で報道されました

海外研修団8名は3月24日に全員無事に長崎に帰ってきました。「とてもいい体験ができたし、ウブドの高校生ともフレンドリーな交流ができた。来年も行きたい」とある生徒は感想を述べています。「じゃかるた新聞(The Daily Jakarta Shimbun)」様より許可をいただきましたので、ここに掲載させていただきます。

《記事全文》 マングローブでゴミ拾い 日本の中高生らカヤック体験 バリ

「長崎市の長崎南山学園の中高生ら8人が22日、バリ島デンパサールのマングローブでカヤックを漕ぎながらゴミ拾いを行った。ウブドでのホームステイや現地の高校との交流の後、帰国前の最後の活動として、初めてカヤックを漕ぎ、マングローブに入った。

場所は海上高速道路の空港入り口付近にあるエコツーリズム施設エコウィサタ・マングローブ・ワナサリ。生徒らは1つのカヤックに2人ずつ、ゴミの拾い手と漕ぎ手に別れて乗り込んだ。行く手がマングローブの枝に阻まれることもあったが、約1時間、水面に浮いたペットボトルやビニール袋を拾い上げた。高校1年生の宮崎拓海さんは「楽しかった。カヤックだけでなくゴミ拾いも出来て気持ち良かった」と話した。引率した英語教師の菅達哉さんは「単なる観光ではなく、自然について学ぶこともできた。有意義な経験だった」と話した。

マングローブの清掃は村人も定期的に行っており、彼らの活動をサポートするためにも継続して催行する予定だ」（北井香織、写真も）

《じゃかるた新聞3月27日付》

